

2017年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、極うずは平年と比べて強かった。波列パターンに対応して、ヨーロッパ東部～ロシア西部、東シベリア、カナダ北部で正偏差、ヨーロッパ北西部、中国北東部～日本の東海上、アラスカの南、五大湖付近で負偏差となった。200 hPa 風速をみると、寒帯前線ジェット気流はユーラシア大陸北部で明瞭となり、亜熱帯ジェット気流は中央アジア及び日本付近で平年に比べて南偏した。海面気圧は、日本の南海上で正偏差、本州～その東海上では負偏差となり、太平洋高気圧は日本の南海上で強く本州付近への張り出しは弱かった。また、上旬～中旬にはオホーツク海高気圧が出現した。850 hPa 気温は、米国西岸～カナダ北西部、ヨーロッパ南部～ロシア西部、東シベリアで高温偏差、米国中・東部、中国北東部～北日本付近で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インドネシア付近、本州南東海上で活発、南シナ海北部～北太平洋西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、太平洋～インド洋を東進した。対流圏上層では、黒海の北～中国北部で波列パターンがみられ、中国北部で高気圧性循環偏差となった。チベット高気圧は西日本方面への張り出しが明瞭だった。対流圏下層では、南シナ海北部～フィリピン東海上で高気圧性循

環偏差、本州東海上で低気圧性循環偏差となり、モンスーントラフは平年より浅かった。海面気圧は、太平洋中・東部で正偏差、インド洋～インドネシア付近で負偏差となった。南方振動指数は+0.7だった。

世界の天候

2017年8月の世界の月平均気温偏差は+0.38°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。8月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.68°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

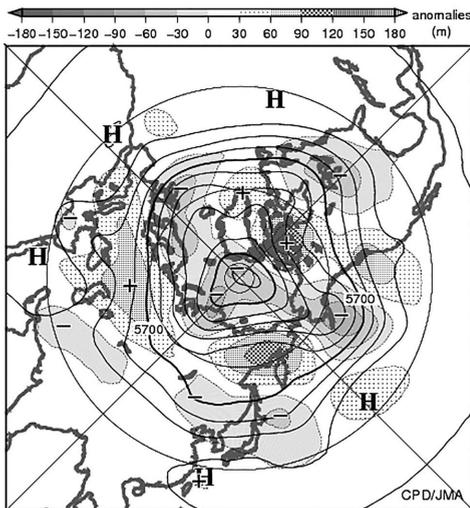
- 九州南部～中国南東部で異常高温となった。
- 米国北西部で異常高温となり、米国南部で異常多雨となった。
- モーリシャス～マダガスカル北部で異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

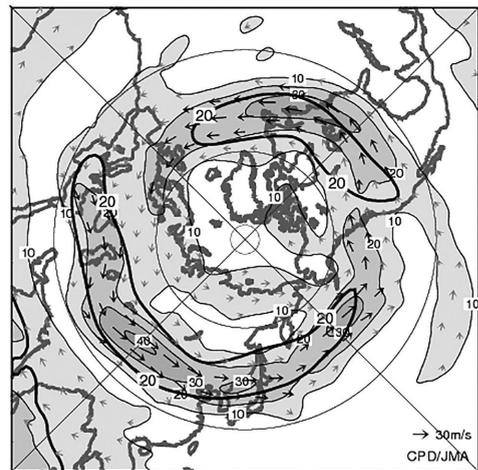
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

「気候系監視速報」をご覧ください。

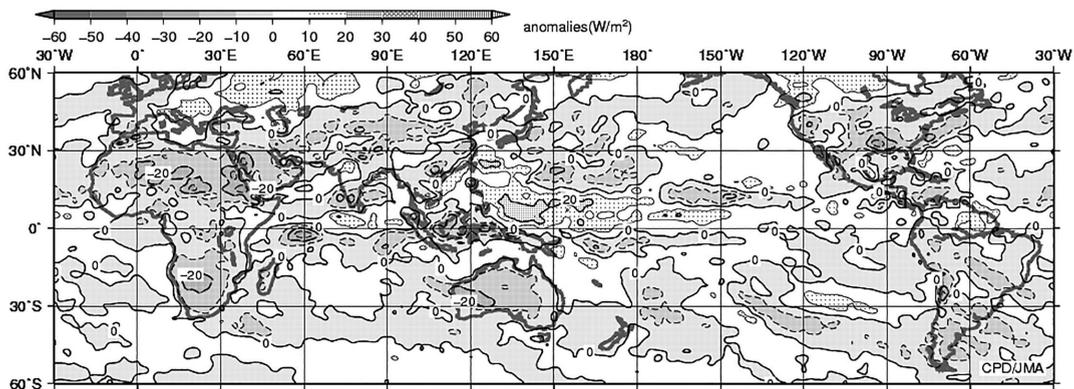
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



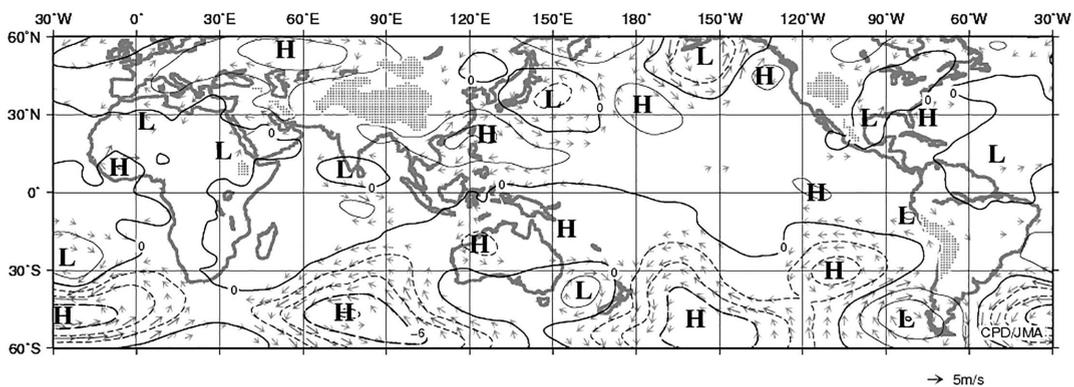
2017年8月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



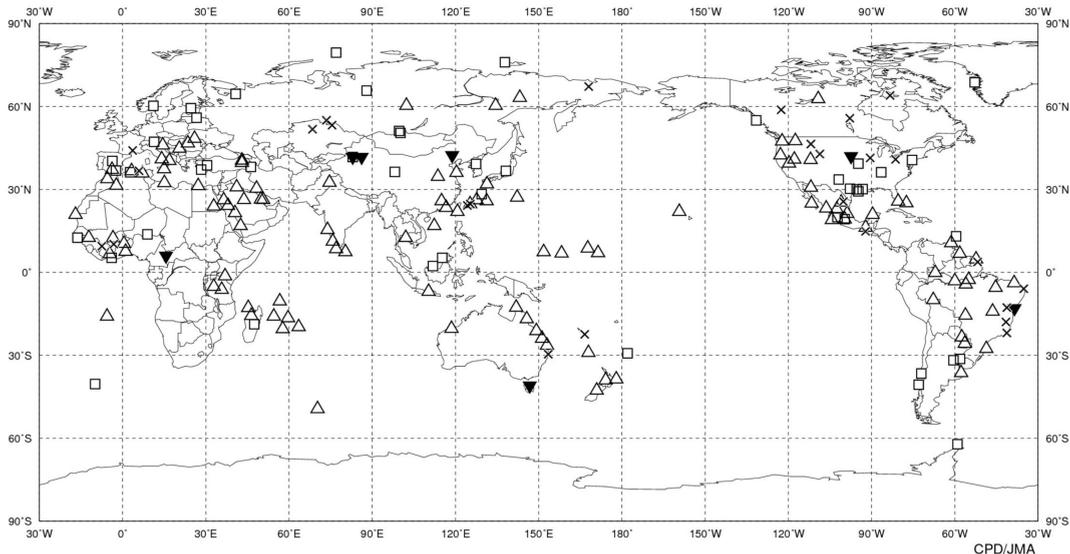
2017年8月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年8月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。